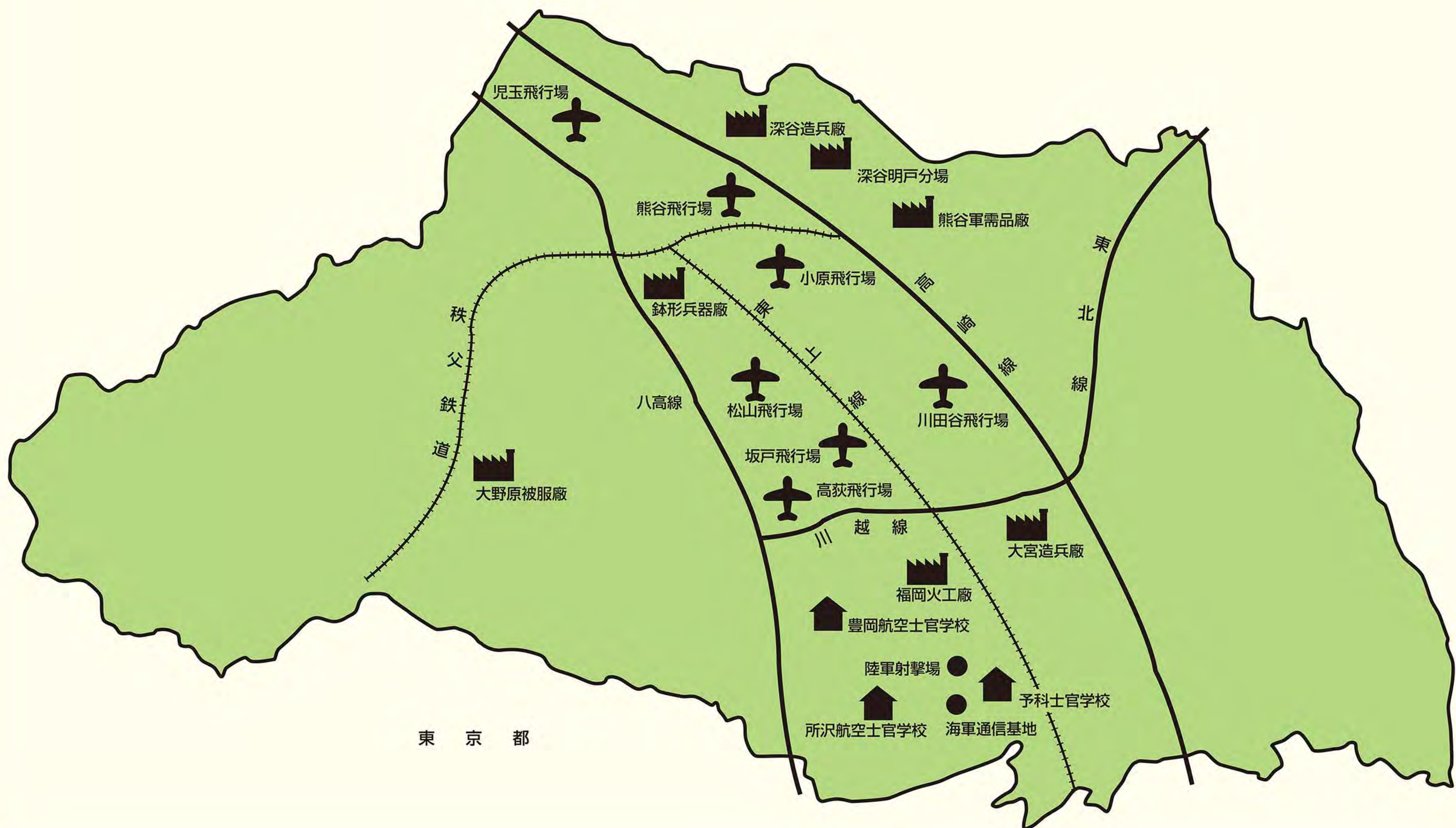


戦時中、埼玉は…

埼玉県内の主な軍事施設の分布図



児玉飛行場跡に
建てられた碑



火工廠（現ふじみ野市）



所沢飛行学校

首都・東京に近いため、 たくさんの軍事工場が

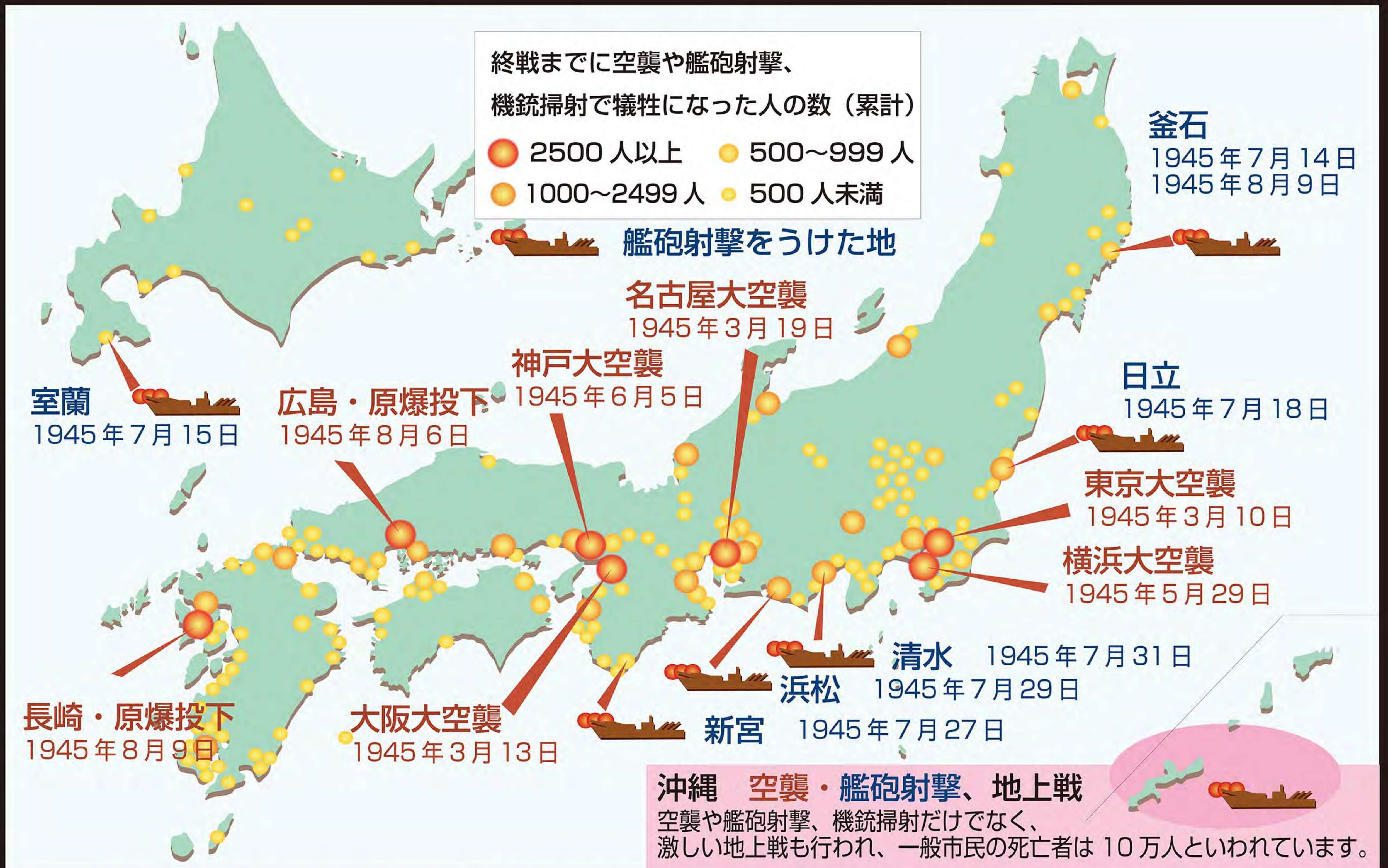
埼玉は、首都・東京に近いことから、戦時中はたくさんの軍事基地や軍事工場がおかれていました。

戦争も末期になると、軍事工場で働いていた人たちも戦場にかりだされていき、働き手が足りなくなりました。

人手不足を補うために、近隣の中学校や女学校の生徒たちが「勤労働員」という名で、軍事工場への勤労奉仕にかりだされました。火薬を扱う危険な場所にも、16～17歳の生徒たちが配属されました。

新座の大和田にあった海軍通信基地、朝霞の予科士官学校、所沢の飛行学校、入間・豊岡の航空士官学校、大宮造兵廠、熊谷飛行場などは、いま自衛隊や在日米軍の基地や施設として使われています。

日本本土への空襲



主な大空襲と被害を受けた地域 資料：「太平洋戦争による我が国の被害総合報告書」（経済安定本部、1949年作成）

埼玉県内では20市以上が空襲にさらされて

日本本土への最初の空襲は、1942（昭和17）年4月18日とされています。アメリカ軍の航空母艦ホーネットを飛び立ったB29爆撃機による空襲がそれです。被害はわずかでしたが、日本軍には大きなショックを与えました。

このとき埼玉では、日本ディーゼル工業川口工場が爆弾を受け、12人が死亡、88人が重軽傷を負いました。また、潮止村（現在の八潮市）の日本煉瓦製造株式会社潮止工場の北方100メートルの畑に爆弾が投下されました。さいわいなことに人にも家畜にも被害はありませんでした。

最初の空襲から2年ほどした1944（昭和19）年11月24日。今度は八幡村（現在の八潮市）に焼夷弾14個が投下されましたが、被害はありませんでした。

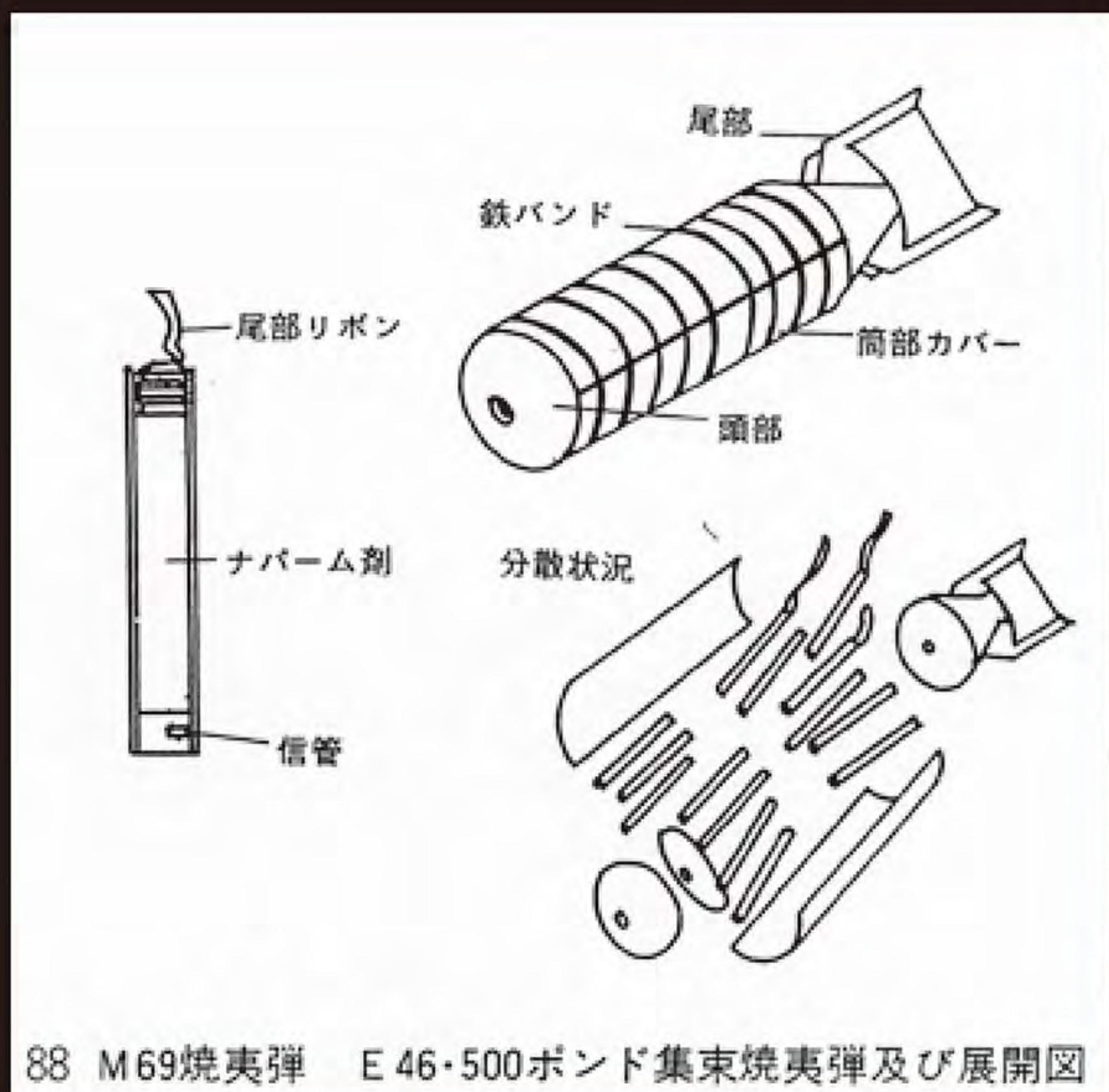


B29の行動範囲

B29は、4トンの爆弾を搭載した場合、5500kmの航続距離をもつ。東京-サイパン間は、約2300kmでありサイパン島の失墜は本土空襲の到来を意味した。

以後、終戦までに埼玉県内では20市以上が空襲に遭い、わかっているだけでも400人以上が亡くなっています。なかでも終戦の前夜に空襲を受けた熊谷市の被害が最も大きなものでした。

東京は焼け野原に 一夜のうちに 10 万人が犠牲に



B29

わずか 2 時間のあいだに
10 万人が焼き殺されて…

日本本土への空襲が本格化したのは 1944 年以降のことです。

太平洋の島々を占領したアメリカ軍は、サイパン島を基地にして日本本土への攻撃をはじめたのです。とくに、カーチス・ルメイが司令官になって以降、東京や大阪、名古屋、横浜などの大都市が空襲を受け、5 月以降になると中小の都市も空襲されました。

終戦までの 9 カ月半に、九州から北海道まで空襲を受けなかった都道府県はひとつもなく、死者 35 万人、負傷者 42 万人という犠牲者をだしました。

なかでも、1945 年 3 月 10 日の東京大空襲では、わずか 2 時間のあいだに 10 万人もの人たちが焼き殺されました。

アメリカ軍による空襲が日ごとに激しさを増してくると、都市部の子どもたちの危険もつのっていきました。

そのため、子どもたちを安全な場所に避難させる必要にせまられました。学童疎開です。子どもたちは親元を離れて農山村へ避難させられ、不自由な集団生活をさせられました。



空襲で焼け焦げた陸軍製絨廠（当時）のレンガ塀
（荒川区南千住）



罹災証明書

予告された空襲

浦和も空襲の予定地にされていた

終戦間近になると、日本は飛行機が足りなくなり、アメリカ軍の攻撃を迎え撃つ体制はほとんどありませんでした。

高射砲などによる攻撃を恐れる必要がなくなったアメリカ軍は、ゆうゆうと日本の上空を飛び、爆弾の雨をふらせました。また、空襲を予告するチラシを事前にばらまいて恐怖心をあおりたてました。

浦和上空にも B29 爆撃機が姿をあらわすようになり、「日本国民に告ぐ」と書いたチラシが空からまかれました。これは爆撃を予告するチラシで、浦和も爆撃の対象にされていました。

これに対して国民は、隣組ごとにつくられた防災班を中心に、バケツに水をくんでリレー式に火元に運ぶ訓練を行い、空襲に備えましたが、それは「焼け石に水」の、むなしいものでした。



空襲を予告するチラシ



空襲を予告するチラシ 「浦和」の文字が書かれている。



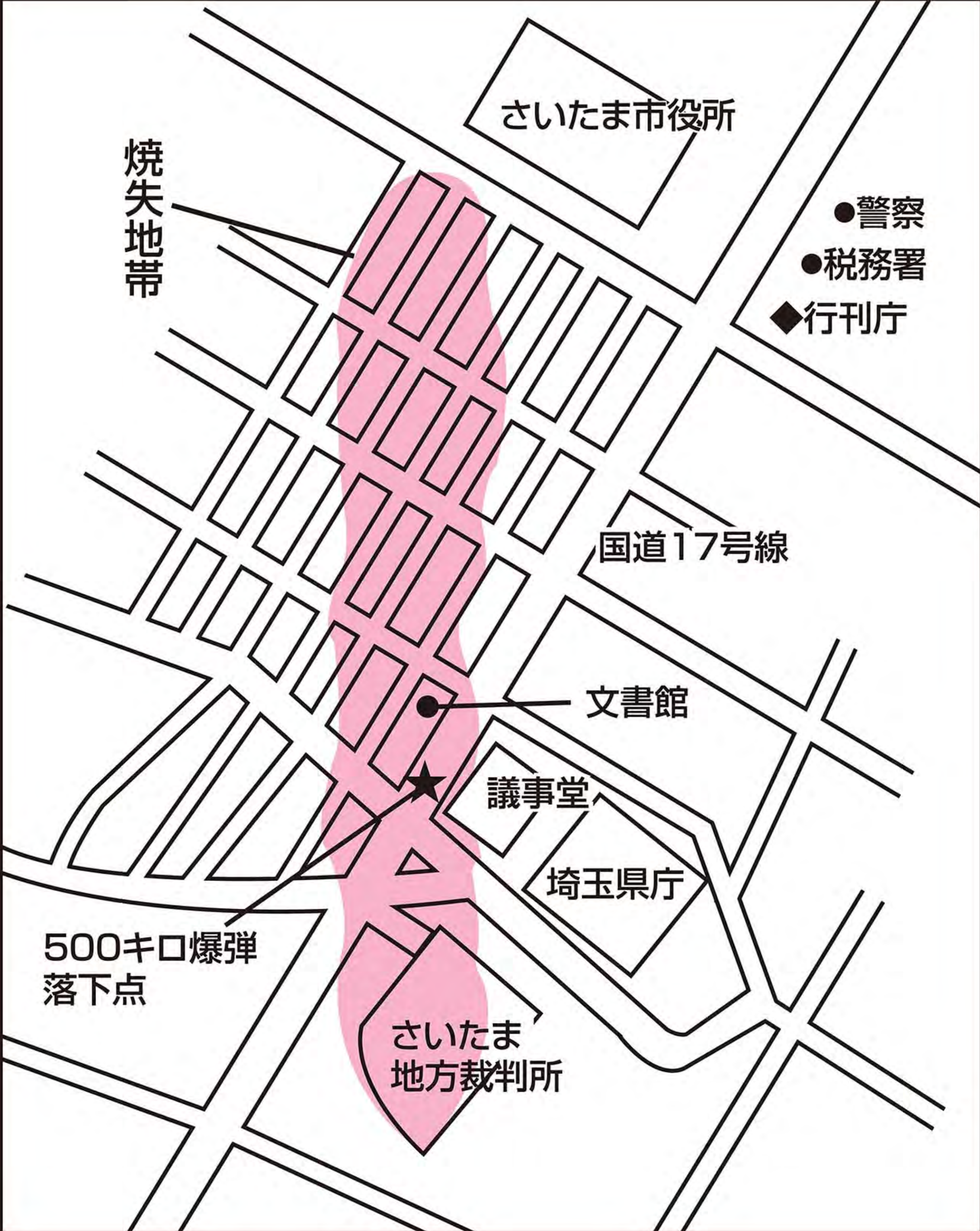
防毒マスクと拍子木



防空演習

浦和の空襲

県庁付近からさいたま市役所に向け一直線に



バケツ片手に防空演習

1945 年 4 月 12 日昼。B29 爆撃機の編隊は、大宮、浦和、北足立・入間両郡下の一部に爆弾を投下。六辻町内で 3 人が死亡しました。

13 日夜半には県南地域を中心に B29 爆撃機が焼夷弾をばらまき、埼玉県庁付近では 500 キロ爆弾を投下しました。

この空襲で、浦和刑務所（現在のさいたま地方裁判所）から国道をへて、現在のさいたま市役所にかけての一带が、一直線に焼けました。

5 月 25 日の未明の空襲で、現在の北浦和公園・県立近代美術館があるところに建てられていた浦和高校（現在は移転して埼玉大学）も焼けました。糧秣廠（食糧倉庫）だったためねらわれた、とのうわさが広がりました。

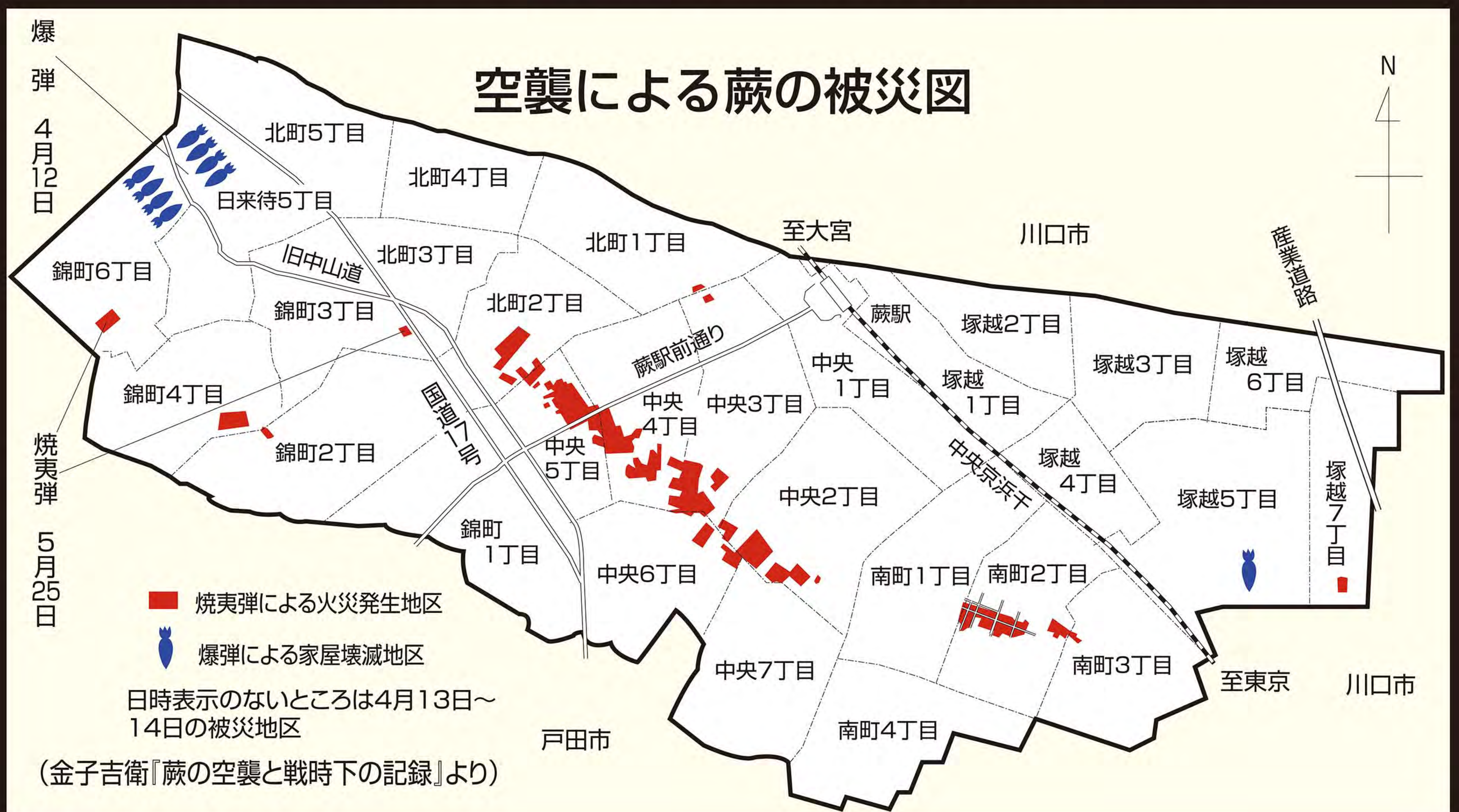
被害状況

4月14日	町名	戸数	重傷	死亡	軽傷
	高砂町	114	2	5	3
	仲町	16	—	—	—
	計	13	2	5	3

5月26日	町名	戸数	重傷	死亡	軽傷
	常 6,7,8	3	—	—	—
	常 北	10	2	1	1
	常 若松	11	9	6	—
	本太第2	1	—	—	—
	本太第3	24	4	2	2
	領家	4	—	1	2
	木崎	2	1	—	—
	針ヶ谷	1	—	3	—
	計	56	16	13	5

蕨の空襲

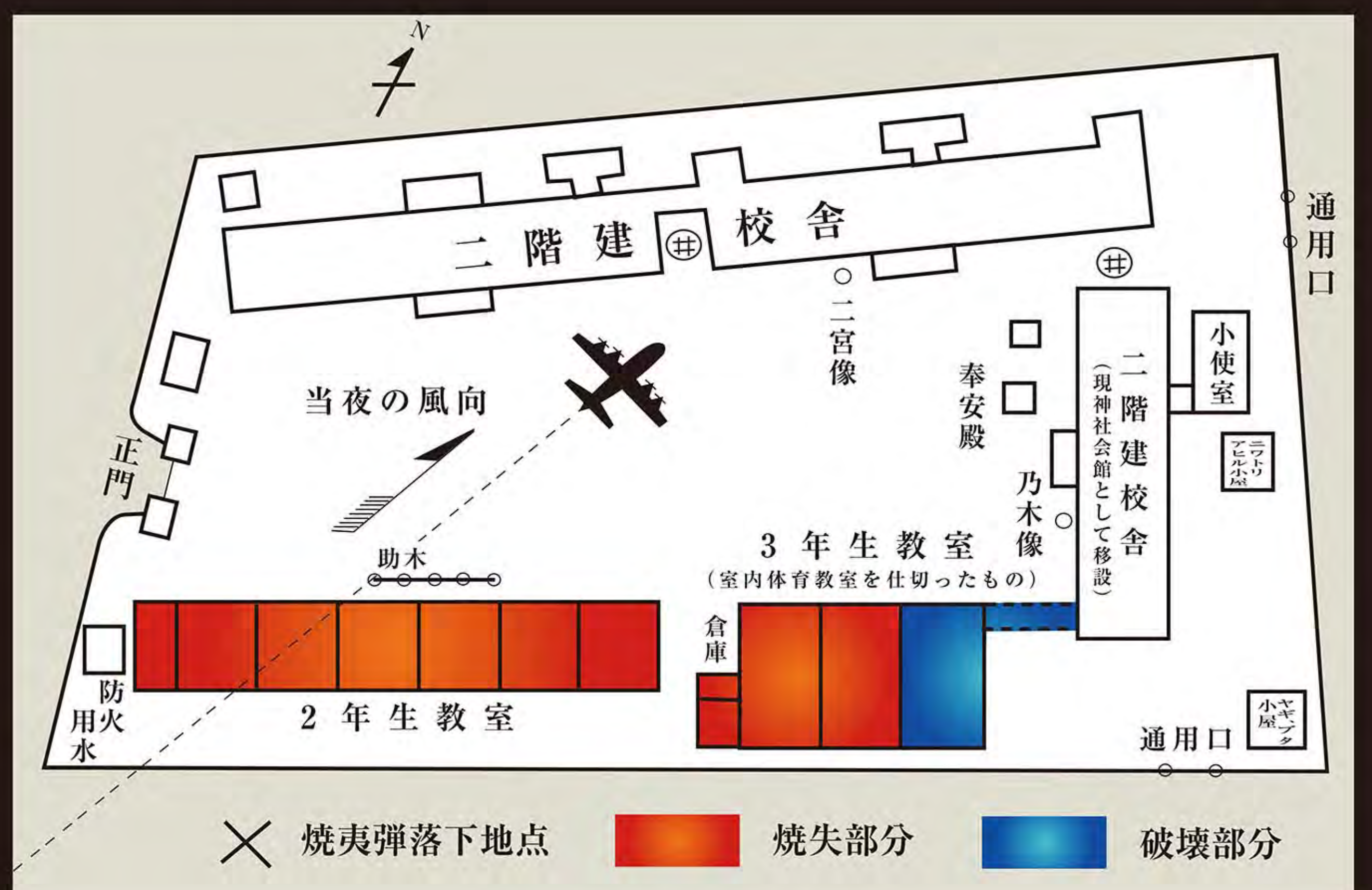
3 回の空襲で死者 49 人。熊谷に次ぐ被害が…



1945 年 4 月 12 日昼ごろ、旧中山道筋の春日町に 1 トン爆弾が投下され、死者 36 人、家屋全壊 16 戸、春日町の民家大半が損壊しました。翌 13 日には、三和町から北小学校まで延長約 1 キロ、幅約 200 メートルにわたって焼夷弾の攻撃を受け、全焼約 280 戸、死者 11 人の被害をだしました。

5 月 25 日には町内の兼松工場裏の民家 2 戸、水深の 1 戸に焼夷弾が落とされ、3 戸全焼、女性 2 人が即死しています。

3 回の空襲による被害の合計は、家屋の全壊・焼失 381 戸、死者 49 人にのぼり、県内でも熊谷に次ぐ大きな被害となっています。



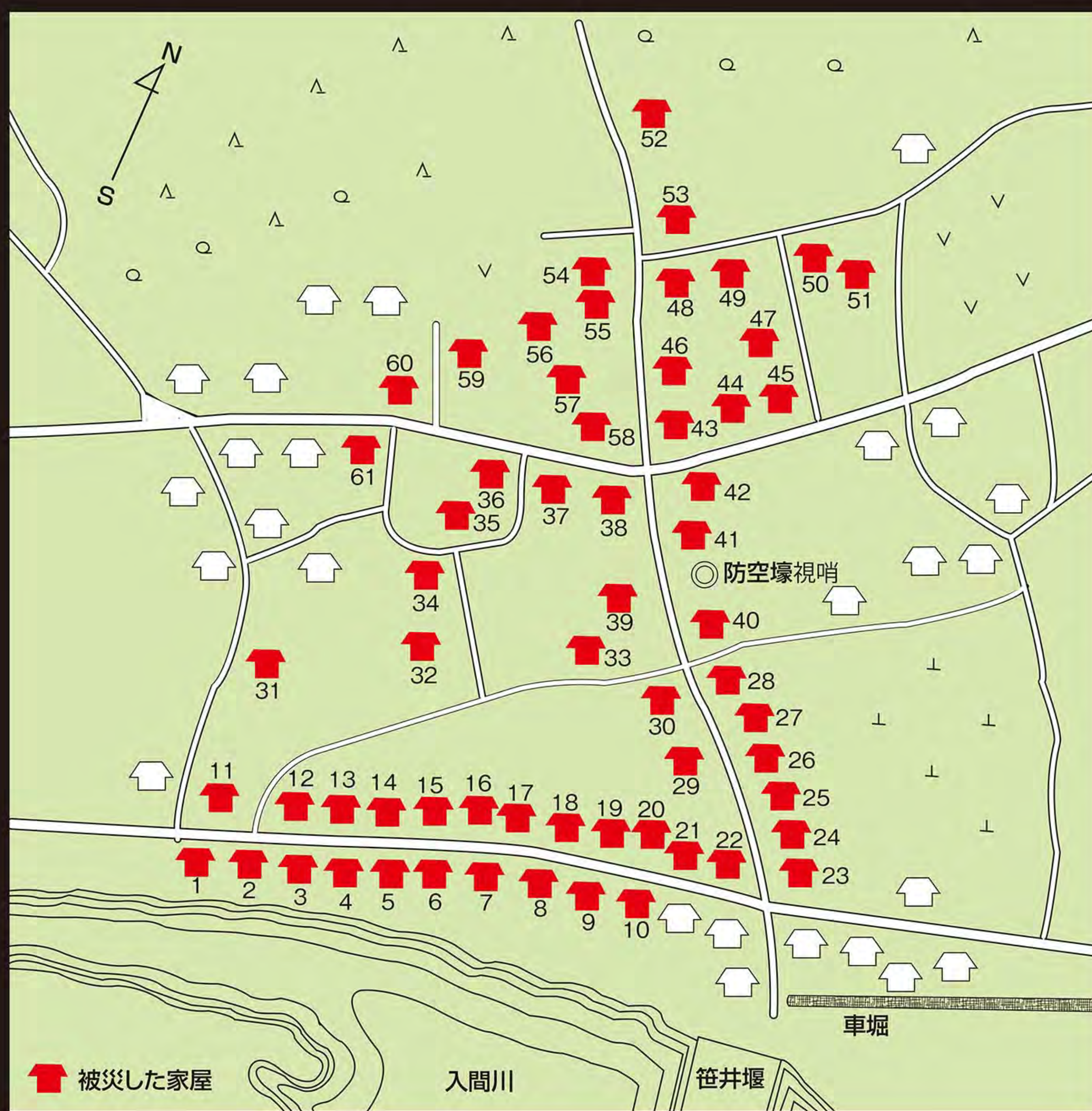
第一国民学校被害図



春日町公園の平和モニュメント

狭山の空襲

静かな田園地帯があっという間に火の海に



- 1 高野喜作 2 吉沢吉五郎 3 平野常造・同恒夫・同春井 4 志村雄二 5 浅見清治（倉庫） 6 井原半三郎 7 堀口作造 8 清水勇作 9 志村亀吉 10 田中虎吉 11 橋本信二 12 松崎正平 13 原田波五郎 14 佐野甲子男・亀井栄子・浜名秀顕 15 古谷作二郎 16 岩崎銀造 17 西久保医師造 18 新井春作 19 鎌田作造 20 田中吉之助 21 山川正太郎 22 平野与助 23 関谷莞爾・新井元五郎、川島かの 24 空家 25 山川春三 26 浅見徳治 27 細田一三 28 石井明 29 岩崎喜一 30 石田真平・石井次郎 31 志村重治 32 堀口清作 33 平野茂助 34 堀口清吉 35 田口仁平 36 田口準太郎 37 水岡栄・北市順子 38 水岡理一 39 平野善作 40 田中正平・同正秀 41 古谷重曹 42 田中実 43 関口吉之助 44 佐々木市之助・同タカ 45 佐々木市郎・同助 46 平井平次郎 47 平井喜十郎 48 石田喜作 49 平野藤吾 50 平野重一 51 平野家物置 52 平野正吾 53 佐々木宗介 54 白鬚神社本殿 55 同神社拝殿 56 同神社社務所（金山愚苗・波賀修平） 57 同神社幟竿置場 58 消防小屋 59 水村輝夫・松保いね・佐藤せん 60 吉野弥三郎 61 田口稔治

1944（昭和19）年11月5日、狭山市に初めてB-29爆撃機があらわれました。以降、45年8月13日までのあいだ、20数回にわたって、狭山市は攻撃にさらされました。

なかでも5月26日午前0時30分ごろ、水富村笹井（現在狭山市大字笹井）から豊岡町黒須（現在入間市春日町）にかけての空襲では、5000発ともいわれる焼夷弾が落とされました。

この空襲では、死者13人、負傷者10人、罹災者69家族、346人にのぼり、静かな田園地帯としてはまれに見る大きな被害がでています。

また、7月10日朝8時30分ごろ、朝礼のさなかに突然、空襲警報が発令になりました。入間国民学校の生徒たちは、ただちに校庭に集合。各集落ごとに分かれて下校しました。生徒たちが林に入ると同時に、突然、機銃掃射の音が鳴り響きました。

この空襲で国民学校校長は、校庭の西隅にある奉安殿から、天皇・皇后の写真を持ち出そうとして、危険をかえりみず飛び出し、空からの射撃を受け、殉職しています。



殉職記事



殉職した小久保入間国民学校校長

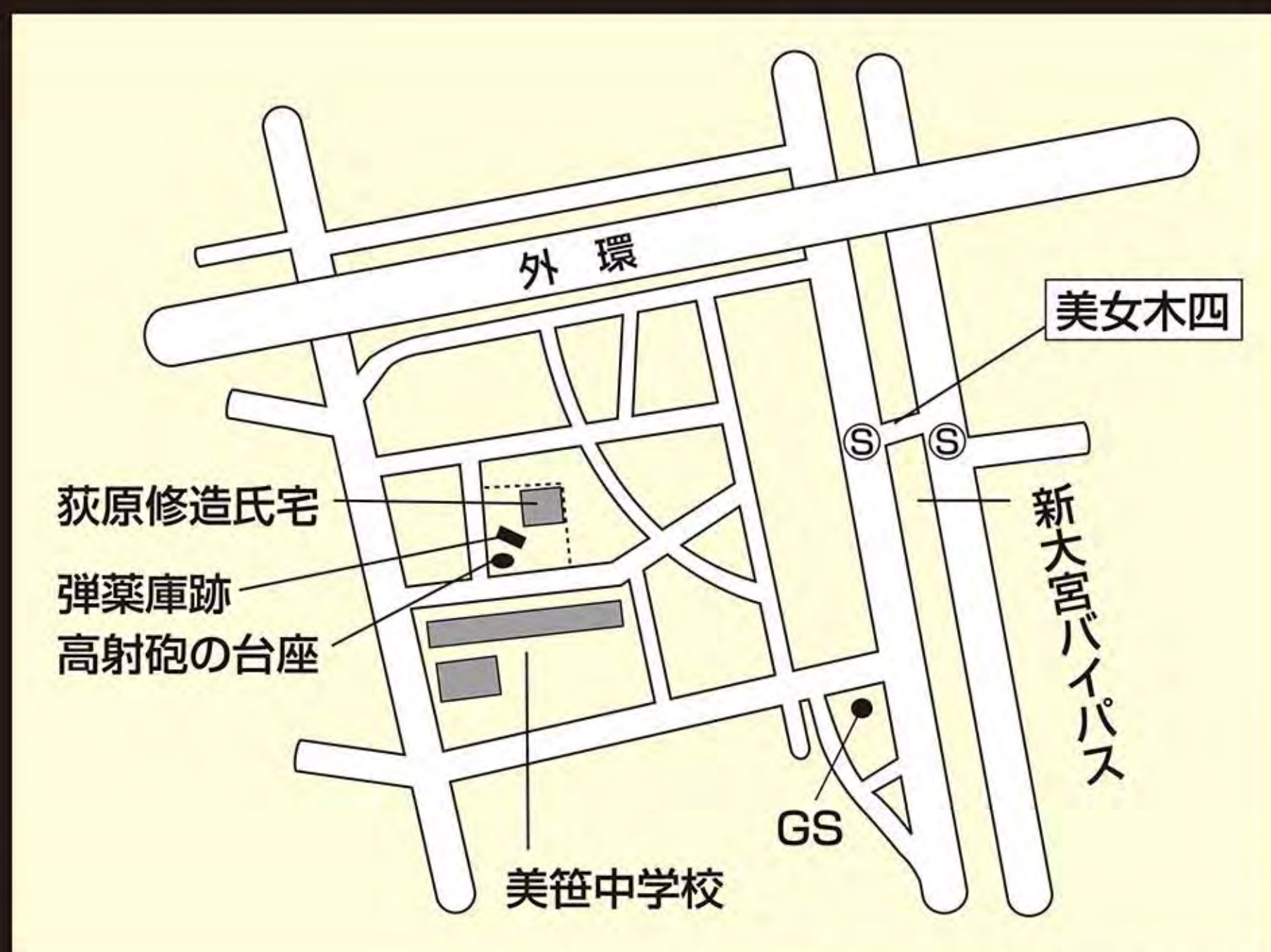
県南の空襲

防空壕が崩れ、母子 6 人が生き埋めに 戸田の空襲

1945 年 3 月 4 日午前 9 時 10 分、上戸田川岸で B29 爆撃機による空襲があり、1 トン爆弾 4 個が戸田橋周辺に落とされました。橋や家屋には被害がありませんでしたが、荒川堤防の土手下の防空壕に避難していた母子 6 人が、生き埋めになって亡くなりました。

5 月 25 日には美女木の高射砲陣地、探照灯陣地がねらわれ、焼夷弾によって 3 戸が消失しています。

新曽地区では 5 月 27 日午前 1 時頃、焼夷弾の爆撃によって民家 20 戸が消失し、死者 1 人、負傷 1 人の被害が出ています。



いまでも残る高射砲陣地跡

小型艦載機による機銃掃射の攻撃で 大宮の空襲

1945 年 4 月 13 日、B29 爆撃機 2 機により、宮町、土手宿が焼夷弾の攻撃を受け、全焼 238 戸、罹災者 1206、死者 1 人の被害がありました。

7 月 6 日午後 1 時頃、B29 爆撃機 1 機と小型機 75 機が県南に侵入。大宮市内にチラシを散布しました。

8 月 3 日午前 10 時 45 分ごろ、P51 艦載機の機銃掃射によって、北足立群馬宮村（現在の大宮市）の荒川河原で農耕中の 3 人が、また大宮下町では待機中の女性 1 人が即死しています。

ビール工場付近に爆弾が投下されて… 川口の空襲

1945 年 4 月 2 日未明、B29 爆撃機の編隊の一部が照明弾や爆弾を投下。翌 3 日夜半には、市内のビール工場付近に爆弾 25 発を投下。死者 1 人、重軽傷者 15~6 人、家屋全壊 46 戸、半壊 13 戸、小破 36 戸の被害を出しました。

4 月 13 日午後 11 時ごろから 4 時間、東京を襲った B29 爆撃機約 170 機の一部が埼玉県上空に侵入。川口市では家屋全焼 82 戸、全壊 80 戸、半焼 2 戸、半壊 50 戸、小破 36 戸の被害を出しました



墜落死した B29 爆撃機の搭乗員の慰霊碑



大宮駅前通りの強制疎開

県西の空襲

陸軍予科士官学校をねらった 爆弾がはずれて… 和光の空襲

1945 年 4 月 2 日明け方の 3 時ころ朝霞の陸軍予科士官学校を目標に投下したと思われる爆弾がはずれて、新倉小学校と同校北門前と新倉下井戸地区に落下。死者 9 人、家屋の全壊半壊 33 棟、全焼したものが 1 戸ありました。

7 日にも B29 爆撃機による爆撃を受け、大和町駅（現在の和光市駅）南側の畑と北側の住宅地に爆弾が落とされ母子 3 人が即死しています。

陸軍軍用機の機関砲（口径 12.7 ミリ）をはじめ、機関銃、ピストルなどの銃砲を専門につくっていた中央工業株式会社（現在の本田技研和光工場があるところ）でも女子工員 5 人が爆死し、飛行機の銃撃戦の流れ弾で 1 人が即死しています。

周囲には飛行場や地下軍事工場が点在… 東松山の空襲

東松山市のまわりには、坂戸飛行場、高萩飛行場、唐子飛行場、熊谷飛行場が点在し、またディーゼル機器（現在のボッシュ）などの大きな工場や地下軍事工場がありました。このため、本土空襲が激しくなった 1944 年年末以降、B-29 爆撃機がひんばんに通過していました。

1945 年 7 月 28 日の空襲ではディーゼル機器の一部が機銃掃射を受け、3 人がなくなっています。



東上線川越駅が機銃掃射を受けて 川越の空襲

1945 年 6 月。川越市でも連雀町に爆弾 2 個が落とされ、1 人が死亡。7 月には東武東上線の川越駅が機銃掃射を受け、旅行者が死亡しました。

7 月 24 日には B-29 爆撃機が高階村に墜落。搭乗員が村民に捕えられ、連馨寺へ連れてこられ、市民のさらしものになるという事件があったと記録されています。

毎日のように警戒警報が発令されて… 所沢の空襲

所沢尋常高等小学校の日誌によると、7 月 10 日には終日、米軍機が姿を見せていたため、授業は行われず、7 月 29 日には有楽町付近が空襲され、民家 1 戸が全壊、数戸が損害を被ったとあります。

1945 年の所沢における被害は、死者 15 人、負傷 16 人、全半壊家屋 54 棟、消失家屋 1 棟にのぼりました。

戦闘機による機銃掃射と爆弾投下で 飯能の空襲

1945 年 5 月 25 日、永田近辺に焼夷弾が多数落とされ、7 月 28 日には飯能市街が P51 戦闘機の空襲を受け、2 人が死亡し、多くの被害者が出ました。

稲荷神社、電元工場（現在の新電元）に機銃掃射と爆弾投下がありました。

県東の空襲

いまでも機銃の弾が煙突に残っていると…

羽生の空襲

1945 年 2 月 25 日、羽生も空襲に見舞われ、6 月 10 日には、米軍機に追撃された陸軍航空隊所属の戦闘機 1 機が下羽生の秀安地域に墜落。搭乗員は落下傘で脱出して無事でしたが、この光景を見ていた住民は、米軍機だと思って拍手を送ったと「羽生市史」には記されています。

7 月 28 日には、羽生ゴム第二工場が機銃掃射を受け、工場近くに住んでいた女性 1 人が犠牲になっています。また同日、手小林村（当時）の帝国絲業岡戸工場も機銃掃射を受けました。

市内各地に焼夷弾が落とされ…

越谷の空襲

1945 年 5 月 24 日の午後 2 時頃、南埼玉郡蒲生村（当時）の大字登戸地内の水田に焼夷弾 65 個が、また同郡大相模村（当時）の四条地内にも焼夷弾 78 個が落とされ、1 戸が全焼しました。

翌 25 日には、大沢町（当時）の鷺後地内、大袋村の大房地内、新方村の弥十郎地内にそれぞれ焼夷弾が落とされています。

終戦前夜の空襲で被害が…

行田の空襲

1945 年 2 月 11 日大字野の地内に爆弾 1 個が落とされ、家屋 2 戸全壊、死者 9 人を出しました。

8 月 14 日、終戦前夜の熊谷の大空襲では、行田も被害を受け、焼夷弾により棚田で 15 戸、門井で 13 戸が全焼、死者 3 人を出し、下忍で 5 戸、持田で 6 戸、忍で 6 戸が全焼しました。翌 15 日朝には、前夜に投下された焼夷弾に触れて、埼玉で死者 5 人負傷者 5 人を出しています。

小型機の編隊が県北地域に侵入し…

加須の空襲

1945 年 7 月 18 日。午後 1 時半頃小型機の編隊が県北地域に侵入し、大里、北埼玉、南埼玉一帯に小型爆弾を落としていきました。

三俣村（当時）の大字上三俣にある竜蔵寺付近では機銃掃射を受けています。



空襲の際の万一に備えて殺された上野動物園の猛獣たちの墓。
「大東亜戦時下猛獣之墓」と刻まれている。（加須市）

県北の空襲

終戦前夜、熊谷につづいて 空襲されて… 本庄の空襲

1945 年 8 月 14 日夜、終戦前夜に熊谷を襲った米軍機が、その継続として本庄を襲いました。この空襲で、東は本庄 3 丁目 6 番付近から西は小島 1 丁目 13 番までの約 1.7 キロメートルの範囲で被害にあっています。

熊谷同様、終戦の前日に 焼夷弾が落とされ… 深谷の空襲

1945 年 2 月機銃掃射や機関砲による射撃、小型爆弾の投下などによって死傷者十数名を出しました。

8 月 14 日には熊谷が大空襲を受けましたが、深谷市でも藤沢村境地区や豊里村の中瀬地区で焼夷弾の投下を受け、それぞれ数戸の家が焼失しました。



ガソリンの代用品「松根油」の工場跡

停車中の列車が銃撃されて… 寄居の空襲

1945 年 7 月 18 日、寄居駅上空に現れた 2 機の小型機によって機銃掃射の攻撃を受けます。

駅員が大声で旅客を避難させましたが、2 人の旅客が死亡、重症 9 人軽症 10 人の被害がでています。



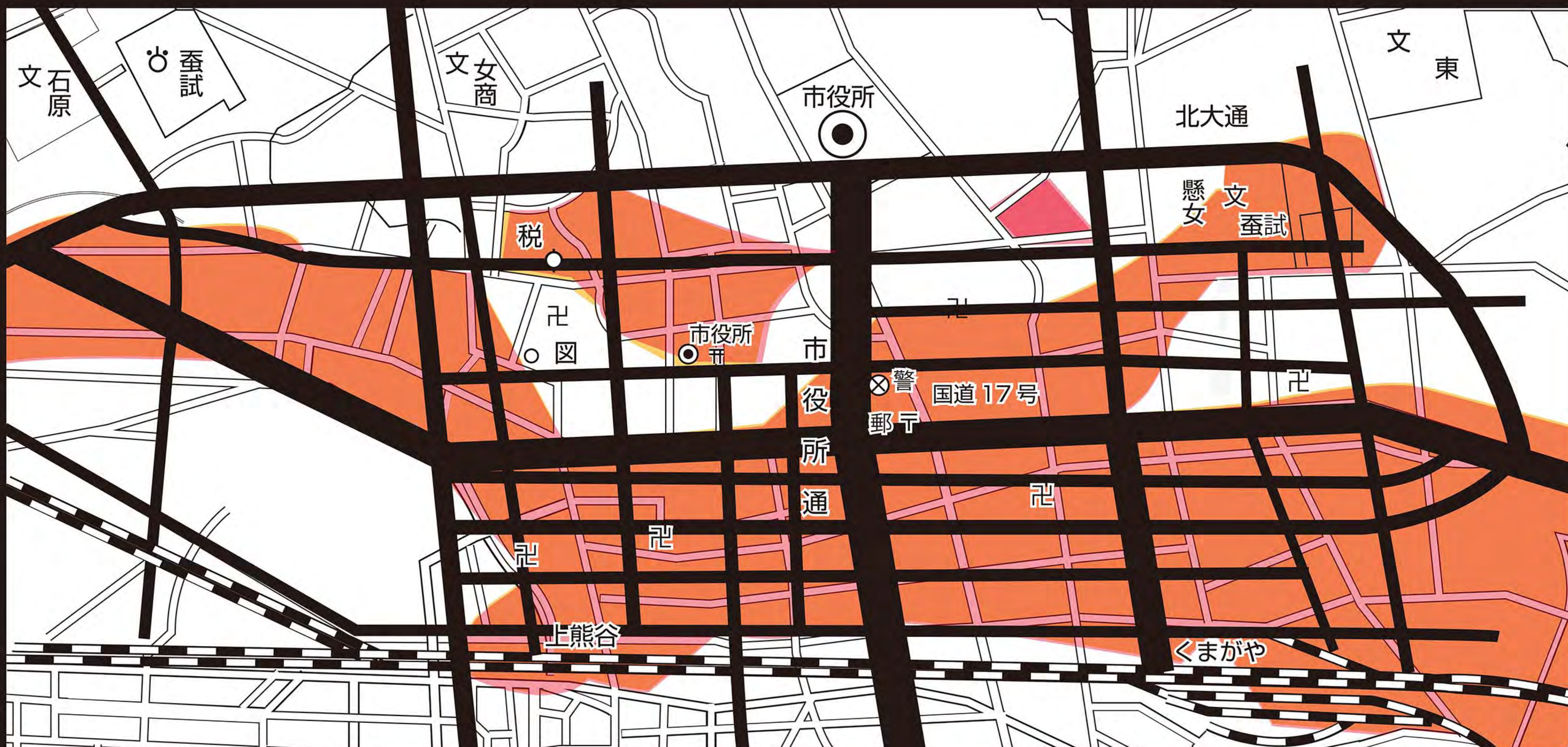
矢尾商店、警察署に機銃掃射が… 秩父の空襲

1945 年 2 月 19 日午後 2 時 50 分頃、秩父郡秩父町（当時）上空を B-29 爆撃機の編隊が通過し、焼夷弾数戸を投下、1 戸が全焼しました。

7 月 10 日には、秩父警察署、秩父地方事務所、矢尾商店が機銃掃射を受けました。人員に被害はありませんでした。7 月 30 日午後 0 時 40 分頃、P51 14 機が来襲し、同町野坂にロケット弾 5 発を撃ち込みました。そのうちの 1 発が民家に命中し、1 人が死亡、3 人が負傷しています。

空襲から逃れるため、寄居町へ避難してきた疎開学童たち

熊谷の空襲



まちの中心が焼失した

終戦前夜の空襲で 266 人が亡くなって…

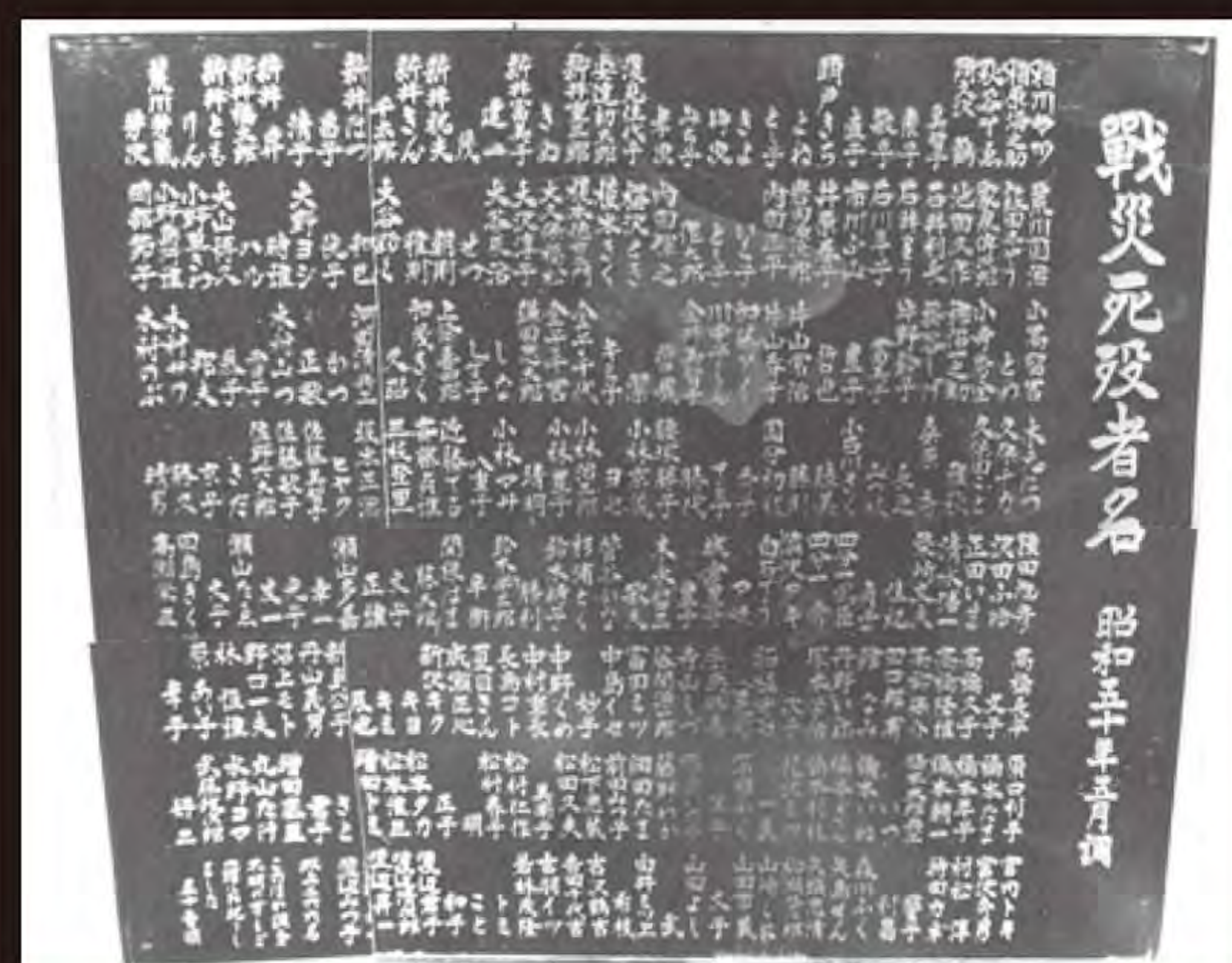
1945 年 8 月 14 日、午後 11 時 30 分ごろ、B-29 爆撃機の編隊が房総方面から熊谷市上空に来襲。高度 3000 ないし 5000 メートルの上空から、照明弾とともに多数の焼夷弾を投下しました。

このため市街地は一瞬にして火の海となり、逃げまどう人々の叫びと悲鳴につつまれ、あたりは生き地獄と化しました。

8 月 6 日、広島。9 日、長崎への原爆投下を契機に、日本は降伏を申し出ます。

いよいよ終戦を迎えようとした 8 月 14 日の真夜中に大空襲を受けた熊谷市は、日本最後の戦災地となりました。

8 月 15 日午前 4 時ごろまでに、おおむね鎮火しましたが、1.2 平方キロメートルを焼きつくし、3630 戸が廃墟と化しました。罹災者は 15390 人、死者 266 人、負傷者 3000 人におよぶ大惨事になったのです。



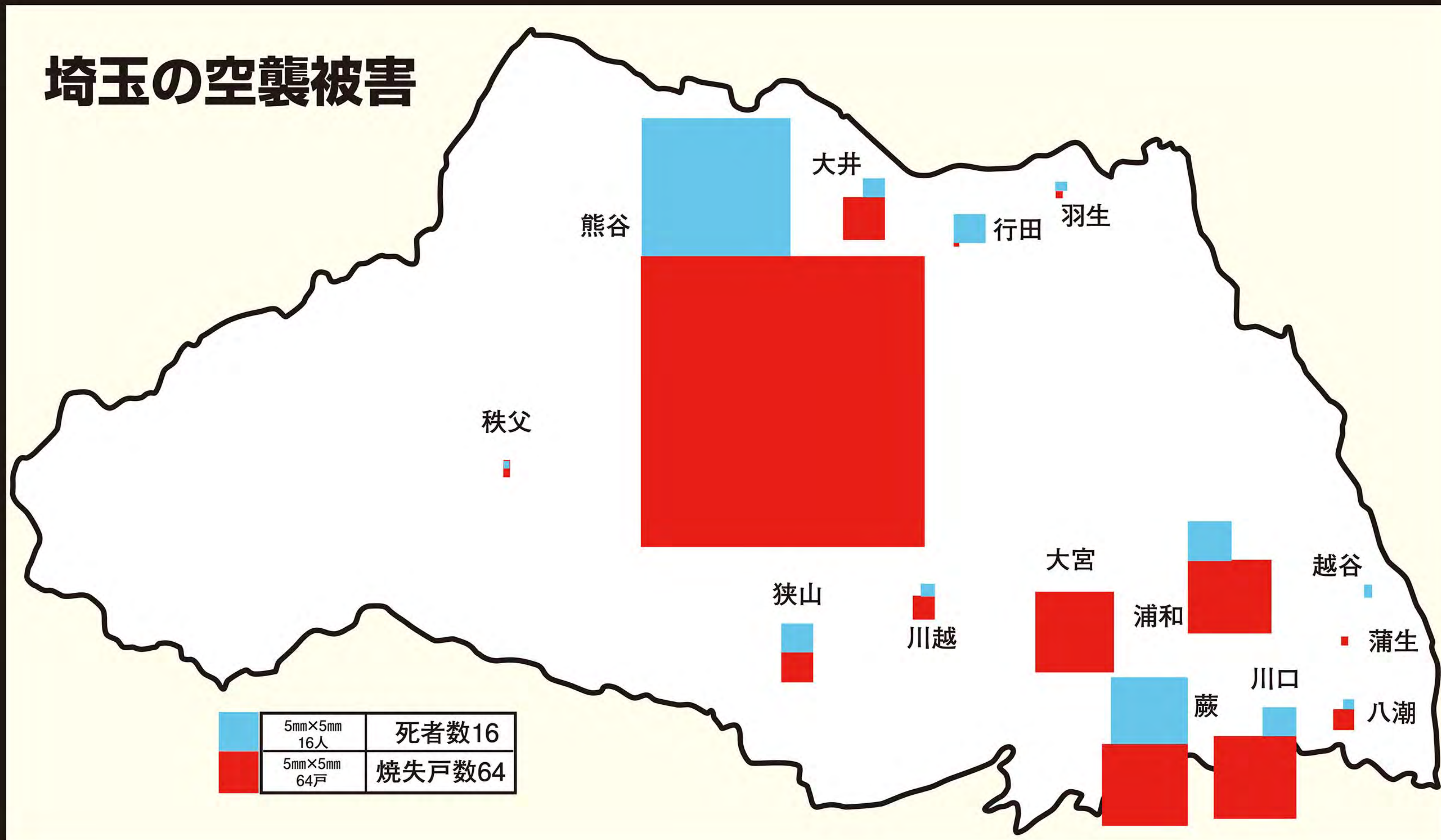
戦災死没者の名簿



生き残った町内の人々の手で建てられた平和地蔵

悪夢の夜が明けて

埼玉の空襲被害



もう 1 日早く戦争が終わっていたら…

悪夢の夜が明けた 8 月 15 日。日本はポツダム宣言を受諾して終戦を迎えます。

「もう 1 日早く戦争が終わっていたら…」。

空襲の 12 時間後に、天皇の終戦放送を聞いた熊谷市民の気持ちはどんなに複雑なものであったことでしょう。

100 人近い人々が折り重なって亡くなっていた星川には、平和を祈念して女神の像が建てられ、また生き残った町内の人々の手で平和地蔵と呼ばれるお地蔵さまも建てられています。



熊谷市街を流れる星川の上に
建つ平和祈念女神像



焼失した家屋

焦土と化した国土



1945年8月6日、広島に原爆が投下された



住民をまきこんで、たたかわれた沖縄戦



玉音放送を聞く人々（1945年8月15日）



中国大陸から着のみ着のまま引き揚げる人々

本土空襲、沖縄、そして広島・長崎

日本の敗北がはっきりしてきた 1945（昭和20）年2月、元総理大臣の近衛文磨は天皇に戦争終結を進言します。しかし天皇は「もう一度戦果を上げてからでないと…」と承知しませんでした。

3月10日の東京大空襲以降、空襲は地方都市にもおよび、日本全土が焦土となりました。

4月には沖縄に米軍が上陸。多くの県民をまきこんだ悲惨な地上戦がたたかわれます。

7月、連合軍はポツダム宣言を発表し、無条件降伏を迫りますが、日本政府はこれを無視しました。

8月6日、米軍は広島に原子爆弾を投下。1発の爆弾で町は完全に破壊され、死者は約12万人にのぼりました。

8日にはソ連が日本に宣戦布告し、満州・朝鮮へ攻め込んできました。

9日には長崎にも原子爆弾が落とされ、約7万4千人が亡くなりました。

14日、政府はポツダム宣言を受諾して無条件降伏。15日、長い戦争は終わりました。